



今月のロータリーレート1\$=110円

2019-20年度 ◆クラブテーマ◆

【原点回帰】

会 長：橋本 孝来 副会長：森田 安高
幹 事：大田 次男 副幹事：東上里 和広

地区ガバナー：新本 博司氏 奉仕の実践/平和で明るい未来

今週の御嶽の紹介 多田御嶽(タダオン) 真栄里

今から500年前の琉球王府時代、八重山最高神職の初代「大阿母」を務めた多田屋遠那理(タダヤブナリ(オナリ))が、首里への上国の際に(逆に戻る時という説もあります)遭難してしまい安南(現在のベトナム)に漂流、その安南から戻る際に、稲の種子や穀物の種子をもって上陸したとされる場所が真栄里の多田浜とされています。(多田御嶽は、種子を一時置いた大きな岩の下にも作物の神が宿ったとして、崇拝するようになったそうです。)(またこの御嶽は、安南から作物栽培の指導のために同行した人「神」を祀ったところという説もあります。)持ち帰った五穀の趣旨を広めたのが種子取祭の由来とされ、平得村の種子取祭は、毎年この御嶽で早朝、ユニガイ(世願い)を行い、その年の豊作を祈願します。

※この御嶽は真栄里海岸に1938(昭和13)年に建立されました。

※多田御嶽は多田浜御嶽(タダハマオン)とも呼ばれます。

「多田御嶽」



「多田御嶽」



1月29日(水) 例会報告

《司会進行：松尾 和彦》

ロータリーソング：奉仕の理想 四つのテスト

ソングリーダー：我那覇 宗善

メークアップ：森田 安高 漢那 憲隆 大濱 達也
小林 昌道

会 員 総 数	45名
出席義務会員	44名
出 席 数	23名
欠 席 数	21名
出 席 率	52.27%
通算出席率(1月)	52.27%

★2月のプログラム

2/12(水)地区大会振替休会

2/19(水)ゲスト卓話:則竹秀南老師氏

例会日 水曜日 12:30~13:30
例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
E-mail ishirota@ninus.ocn.ne.jp

◆◆◆会長挨拶：橋本 孝来◆◆◆



毎日、感染症のニュースばかりですが、石垣は先週マラソンもあり、ロッテの新人の佐々木さんも来ているようですね。マラソンの時は、私も応援に参加して、頑張れと手をたたき続けていましたが自分も元気が出ました。私の自宅の直前、名蔵の方の坂道でやいま村に向かって登っていく所ですが、皆さんつらそうにしている大半が歩いていました。それを見ていると箱根の大学生たちは凄いなと感心しました。先週は、映画のロケも行われていました。ていだの子という映画の制作中でエキストラも募集していました。うちの病院にも、病院でのシーンを撮りたいから使わせて欲しいという話がありどうぞとお受けいたしました。入り口から待合室を走り抜けて病室まで行って、その病室で男女が激しい口論をするというシーンがあって、それを夜9時くらいに撮りたいと言われて、いいけれども患者さんたち興奮して寝れないんじゃないかと心配しましたが、そういう事もなく順調に翌日の朝も無事にロケを終了しました。かなり古い建物ですが、あれはあれで味があるのかなという方に解釈しており、映像に残るといっても有り難いことかなというふうに思っています。また先週は、ロータリーに関連する事でいいですとメールが届いていましたが、ビルゲイツと奥さんが、エンドポリオの寄付をロータリーとのパートナーシップ延長してやるとのビデオレターがありとてもいいビデオレターでした。一人で300億円からMAX600億円くらいまで出すつもりでいるとおっしゃってしまっていてびっくりしました。彼が言っていたのは、いろんなプロジェクトは最後の最後が一番大変なんだとおっしゃっていて、カウントダウンでテン、ナイン、エイトとズーきてワンまでくるけど、ゼロと言えるのはつらく苦しい戦いなんだという表現をされていました。やっぱり完璧というのはほんとに大変なんだと思いますけれども、そこまで一緒にやっていくという事で、そういう活動に私個人としても加えてもらっているという本当にロータリーに有り難みを感じています。あと医者の部分で言うと、ポリオが撲滅されたとして、ウイルスが消滅される訳ではないだろうと。だからワクチンをずっと人類は打ち続けるのか、この辺の話が次また出てきて、副作用がゼロのワクチンというのは多分世の中になんかと思しますので、そのような話題のディスカッションは次にはスタートするのだろうと考えているところです。本日は、南波さんにロータリー財団についてという事で卓話をご用意いただきました。南波さんよろしくお願ひいたします。

◆◆◆幹事報告：大田 次男◆◆◆

有効クラブの札幌真駒内RCから首里城再建への義捐金として3万円を預かっております。札幌真駒内RCが所属している第2510地区としては、今回の首里城は自然災害ではないということで、各クラブの任意でしてくださいとのことでしたが、札幌真駒内RCは当クラブと有効クラブであることから、ぜひ義捐金を預けたいということで、集まった金額を当クラブの5万円と一緒に合計8万円を第2580地区のガバナー事務所へ本日、送金させていただきます。札幌真駒内RCより石垣RCの皆様へよろしくお伝えくださいとのことでした。2/1(土)に第19回まるごフェスティバルへのご案内が来ており、会員の皆さんの中で当日、時間がある方はぜひ顔を出して頂けたらと思います。9時~5時石垣福祉センターで、講演会やワークショップなどがあります。地区大会2/11のロータリーデーの日ですが、琉球新報と沖縄タイムスの2に全1ページ、カラーで広告の掲載を打ちますという事が実行委員会で決まりました。各クラブの企業の皆さんに名刺広告の依頼が届いております。広告料は2社合わせて66,000円で合計54社を予定しています。ご希望の方は2/3までに事務局へ連絡をお願いいたします。

◆◆◆会員卓話：南波 正幸氏◆◆◆

ロータリー財団委員長

◆テーマ◆
ロータリー財団について



皆さん、こんにちは。ロータリー財団のお話は、本当はロータリー一月間に話さなければいけないのですが、ちょうどロータリー財団の資料がありますので、パワーポイント使って2019-20年度版でお話いたします。今から約100年前の1917年に、当時のRI会長が“世界に何か良いことをしよう”と呼びかけてロータリー財団が設立されました。ポール・ハリスがロータリーをはじめた12年後のことです。当時は第一次世界大戦の最中でありましたが、大きな器で世界に奉仕することを考えていたアーチ・クランフに敬意を憶えます。財団の活動は、ポリオ根絶、ロータリー平和フェロウシップ、補助金の3つです。前年度の寄付総額は4億1,470万ドルです。120万人が協力すると、大きな金額になりますね。次年度の世界のファンドレイジング目標は、4億ドルです。前年度の支出総額は3億2800万ドルで、全体の92%が財団活動とその運営費に使われています。財団は、チャリティ・ナビゲーターから11年連続で4つ星評価を受けています。チャリティ・ナビゲーターは、アメリカ国内の慈善団体の格付けを行う機関です。この評価は、寄付金が効果的にプログラムに活用され、健全なガバナンスが保たれているとお墨付きをもらっているということです。英語版にはなりますが、ウェブサイトで会計報告を閲覧することもできます。

し、隠さない、オープンな運営ということではできると思います。本部の年次報告や収支報告を目にしたことがないという方がいらっしゃるの、参考資料としてスライドに貼り付けます。年次報告書は本部のウェブサイトからダウンロードできます。全体像の説明は以上です。続いて、ポリオ根絶活動について説明いたします。ポリオの正式名称は「急性灰白髄炎」一般に「小児まひ」とも呼ばれます。ポリオは感染した人の排せつ物で汚染された飲用水や食品を通じて広まる腸内ウイルスです。感染者の腸でウイルスが増殖し、下水のインフラがないようなエリアで、手や指を介して口からウイルスが侵入し、主に子どもが感染します。しかし、ウイルスが体内で生きられるのは1か月程度ですし、体外で生きられるのは2週間だけなので、感染の連鎖を断ち切れればウイルスを根絶させると考えられています。ロータリーは1985年からポリオの根絶を目指し、今まで18億ドル以上の資金を投入してきました。世界で大流行したポリオですが、2018年は3カ国、33人だけでした。もう日本人には無関係と思う方がいますが、日本を含めた「ポリオ根絶宣言」がされている国でも、今なお、子どもたちへのポリオの予防接種を継続され、税金が使われています。2019-20年度地区ポリオプラス委員長が、2018年3月にインドのワクチン全国一斉投与活動に参加してきたそうです。その方が参加したブースだけでも1日で5歳以下の子ども、300人以上にワクチンを投与したと話していました。翌日は保健師と共に各家庭を個別訪問しワクチンの投与を行ったそうですが、全ての建物や家々に驚くほどたくさんのお子さんが住んでおり、ワクチンがいくらあっても足りないと感じたとおっしゃっていました。保健所や病院での感染症の予防接種が定着しているのは、一部の近代国家だけです。この棒グラフは発症数が減少していることを示していますが、ワクチン投与活動を怠れば、いつまたどこかの地域で流行するとも限りませんので、この地球上からポリオが根絶されるまで支援する必要があると思います。もうひとつ、2580地区のロータリアンが忘れてはならないことがあります。それはこのポリオ根絶活動をロータリー財団の事業として取り上げさせたのが、日本人のロータリアン、それも東京麴町 RC の会員であった山田ツネ氏であったということです。命をかけて献身された偉大な先輩の存在を、いつまでも記憶に留めていただきたいと思います。ポリオには、特効薬などの確実な治療法はないため、義手や義足を製作し少しでも生活が楽になるように支援をするしかありません。ポリオは予防することが一番有効な手段です。そのためにはロータリーや協力団体からの継続的な資金援助が求められています。地区のポリオプラス委員会が掲げている目標はひとり30ドルです。当クラブとしてもポリオ根絶までポリオプラス基金への寄付を募りたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。次に、ロータ

リー平和フェローシップについて説明いたします。ロータリー平和フェローシップは、世界平和と開発の担い手となる人材を育てるための奨学金プログラムです。提携大学内に「ロータリー平和センター」を設け、そこで学ぶ方に奨学金を提供します。平和センターは地球上に6カ所しかありません。その内の1つが、なんと日本に、しかも東京(国際基督教大学 略して ICU)にあります。ICUの平和センターには毎年10名が来日し、2年間、平和と開発を研究し修士号取得を目指します。ICU周辺の地区がホストエリアとなり、各地区2名程度のカウンセラーをしています。スライドは2580地区が担当している16期生(2017-19)と17期生(2018-20)の4名です。皆様のご寄付がここに写っている彼らの奨学金になり、学びや生活を支えています。このプログラムは、2002年に開始された比較的新しいものですが、創立から10年あまりで1200人以上の人材を輩出してきました。その多くは国連や世界銀行といった国際機関や、草の根のNGOでリーダーシップを発揮しています。平和構築の分野で3~5年の経験がないと申請できません。かなり条件が厳しいですが、2019-20年度は100名の枠に対して、700名の申請が世界中からあったそうです。4月には、東ティモールで活動中の日本人男性からの国際電話で、2580地区にも推薦希望の問い合わせがあったそうです。国際NGO団体でプロジェクトマネージャーとして農村地域の農業事業や女性の貧困対策支援に携わっている方とのこと。その方のように途上国での支援活動を経験している人を、平和センターでより強化して、途上国で更なる貢献をするというのがこのプログラムの目指すところですが、ここで、素食例会をご提案いたします。素食例会とは、例会食をカレーや軽食にして、節約できたお金を寄付するというもので、チャリティーランチと呼んでいるクラブもあるようです。当クラブでも実施をしませんか?あるクラブでは軽食にすることでお一人1200円を浮かせ、それを活動に充てるということをしたそうです。素食例会をして、「国際ロータリー第2580地区ロータリー平和フェローシップ基金」へ寄付をするということをクラブ役員の皆様やプログラム委員長と検討できればと考えております。2010-11年度から2580地区では現在の補助金制度が始まりましたが、既に66クラブが地区補助金を1度以上利用しているそうです。補助金は、当地区の会員の皆様が、財団に寄付したものが原資です。3年前の寄付の約半分を地区が使うことができます。補助金は「地区補助金」と「グローバル補助金」の2種類ございます。どちらも「人道的プロジェクト」と「奨学金」に使うことができます。奨学生は、地区ロータリー財団委員会が募集や選考を行いますので、各クラブでは人道的プロジェクトの計画と実施が期待されています。2つの補助金の基本的な条件を説明します。グローバル補助金は、実施国と援助国のロータリーが

共同で実施し、総額 3 万ドル以上、ロータリーの 6 つの重点分野に該当する活動でなくてはなりません。日本のクラブが途上国のクラブを支援するケースが多く見受けられますが、先方にまかせっきりの、いわゆる便乗でないように注意が必要です。グローバル補助金は、いつでも申請できます。面識のないクラブと組むのは現実的ではないので、皆様の中に海外のロータリアンとお知り合いの方がいらっしゃればぜひご紹介いただき、両クラブが交流をすることからはじめる必要があると思います。他のクラブでは米山奨学生に協力してもらい、その方の出身国で活動をしたり、姉妹クラブの関係で計画を進めたりしているようです。地区補助金は、1 年以内に完了する活動で、クラブ単独で実施できます。名前のせいで、地区補助金は日本で行う社会奉仕活動、グローバル補助金は海外で行う国際奉仕活動と勘違いされている方がいるようですが、地区補助金でも国際奉仕活動はできます。いきなりグローバル補助金で規模の大きい活動をするのは難しいと思いますので、まずは地区補助金を使って国際奉仕活動を試みませんか？その活動に際し、メンバーが現地を訪問すると思いますので、その機会に周辺クラブのロータリアンと会ってみて、うまくいくようなら翌年度に同じエリアでグローバル補助金プロジェクトをやるというのも一つの手だと思います。地区補助金につきましては、支援基準と留意点を良く確認し、申請準備をする必要があります。内容は財団の使命に沿ったものでないといけません。財団の使命とは、「ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、親善・平和を達成できるようにすること」です。地区補助金を使う活動としてふさわしくないものの例はスライドの通りです。これらの事項にあたると支援は認められません。他団体の活動や、地域の少年野球等のイベントには補助金を使えません。支援を考えているエリアにどのような問題があり、他団体はどのような活動で支援をしているか知ることは重要です。しかし、安易にそれに乗っかるのではなく、問題解決の一助となるために、ロータリークラブとして独自の活動ができないかを考える必要があります。他団体ができないことでも、ロータリークラブの信用、資金、人材、知恵、ネットワークがあればできることはあるはずです。個人では思いもよらないこと、解決できると思えない問題でも、クラブの複数のメンバーが協力すれば、できることがあるかもしれません。皆様お忙しいかと存じますが、できる人ができることをやり、役割分担し、計画的に当クラブでも進めてまいりましょう。地区補助金の申請受付期間は 7~9 月です。2019 年 7~9 月に申請するのは、2020-21 年度に実施する活動です。地区補助金委員に面会や電話で相談できる「補助金カウンセリング」という制度がございます。必要があれば当クラブでも依頼をしましょう。地区補助金の支援額は、上限 60 万円か

つ総額の 80%です。つまり総額 75 万円の活動が、クラブ拠出金 15 万円だけで実施できるということです。補助金は私たちの寄付が原資です。しっかり寄付し、しっかり補助金を使うというのが理想なので、どうぞよろしくお願いいたします。周年式典では奉仕活動の報告をできればと思いますので、奉仕活動を計画してみたいかがでしょうか？寄付に関して説明いたします。2017-18 年度の 2580 地区の寄付総額は 69 万ドルでした。2018-19 年度は 4 月の段階で 62 万ドルということです。2017-18 年度の平均額は 229 ドルということで、目標の 230 ドルには 1 ドルの未達でした。2580 地区では正会員の皆様から一人 230 ドルを、4 つの種類に指定いただくようお願いしています。これ以上できるクラブも、そうでないクラブもあるので、地区の寄付方針を目安として、各クラブが寄付目標額を設定します。当クラブの寄付目標は、お一人××ドルで、内訳は年次基金へ××ドル、ポリオプラス基金へ××ドル、恒久基金に××ドル、2580 地区の平和フェロウシップ基金に××ドルです。ロータリー財団では、感謝の気持ちを表すために、さまざまな認証の機会を用意しています。地区大会で表彰されている「クラブのバナー認証」もそのひとつです。表彰を目指すクラブがここ数年増えているようです。当クラブも認証を目指したいと思っております。クラブのバナー認証の条件は、新入会員を除く正会員全員が 25 ドル以上の寄付をしていることと、平均額が 100 ドルに達していることの 2 つです。両条件を年次基金だけで達成すると「Every Rotarian, Every Year」、年次基金だけでは無理でも全基金の合計で達成できれば「100%ロータリー財団寄付クラブ」のバナーが贈呈されます。寄付推進は、スライドの 3 つの方法が一般的のようです。→①を採用しているクラブの場合、当クラブは①の方法を採用しております。→②または③を採用しているクラブ、当クラブは②（または③）の方法を採用しております。4 月 23 日の地区研修協議会の時に、地区ロータリー財団委員会から、②③のクラブにも、①の「会費と同時に寄付も集めて欲しい」という会員がいるのではないかと呼び掛けられました。寄付デスクでのやり取りが面倒とか、仕事が現役でなかなか自クラブの例会に出られないとか、支店長なので会費と同時に経費にできるとか、現金を持ち歩かない主義など、理由は様々ですが、①を希望する一部の方に対応できないかと提案いただきましたので、当クラブでも①をご希望の方がいらっしゃれば、私か事務局に申し出ていただければと思います。日本のロータリーの寄付は、まず公益財団法人ロータリー日本財団に入り、そこから本部に送られるので、個人、法人からのご寄付には税制上の優遇措置が受けられます。最後にポール・ハリス・ソサエティという認証に関して説明します。ポール・ハリス・ソサエティは、年次基金かポリオプラス基金に毎年 1000 ドル以上ご寄付くださる

方を認証する制度です。2580 地区では一人 230ドルを地区方針として呼び掛けておりますが、これは新入会員や若い方を考えての設定です。日本には 871 名、当地区には 33 名のポール・ハリス・ソサエティがあります(2019 年 3 月時点)。他地区ではポール・ハリス・ソサエティを対象とした食事会を行っているようなので、2019-20 年度は 2580 地区でも実施を検討しているそうです。ノブレス・オブリージュというフランス語があります。身分の高い者はそれに応じた責任を果たさなければならないという意味で使われます。パスト会長やパスト財団委員長の皆様や、会長エレクトやノミニーの皆様には、その責任とステータスを明示するために、ポール・ハリス・ソサエティになっていただきたく期待しております。本日、ポール・ハリス・ソサエティになると宣言いただける方は、卓話後にお知らせください。後日、ガバナーと地区ロータリー財団委員長のサインがされた認証状と、ロータリーの襟ピンとセットで胸に付けるウイン

グが贈呈されます。例会や地区大会ではウイングを皆で付けましょう。ちなみに、ポール・ハリス・フェローには馴染みがあると思いますが、これは、年次基金とポリオプラス基金への寄付が累計 1,000ドルに達した時にポール・ハリス・フェローになり、その後は寄付 1,000ドル毎にマルチプル・ポール・ハリス・フェローのレベルが+1から+8まで上がっていきます。メジャードナーというのは、全基金合計で、寄付累計が1万ドルに達した時に認証されます。ポール・ハリス・ソサエティになると宣言くださった方が毎年 1,000ドル寄付すると、10年でメジャードナーになるということです。実際には入会してから今までにいくらかのご寄付をなさっていると思いますので、10年待たずにメジャードナーになると思います。メジャードナーになると顕彰午餐会で RI 会長と写真を撮ったり、国際大会でメジャードナーだけが参加できる食事会の案内がもらえたりするそうです。以上です。ご清聴ありがとうございました。

～例会風景～



本日のニコニコ

- ☆橋本 孝来氏:南波さん、卓話ありがとうございます。
又、小林さん、新垣さん、宮城早人さん、誕生日おめでとございます。
- ☆大田 次男氏:お陰様で義母が 97 才のカジマヤーを迎える事ができました。
- ☆今西 敦之氏:南波パスト会長 本日の卓話楽しみにしております。先週の職業奉仕、財団委員会合同新年会ご参加の会員ありがとうございました。
- ☆松尾 和彦氏:感染症に負けない食生活を心がけましょう！

◆BOX¥4,000 (累計¥193,700) ◆コイン¥3,509 (累計¥53,186) 合計 ¥246,886

Happy birthday



伊盛米俊氏 18日(火) 吉田貴紀氏 18日(火) 佐久本達氏 23日(日) 金城力氏 24日(月)

